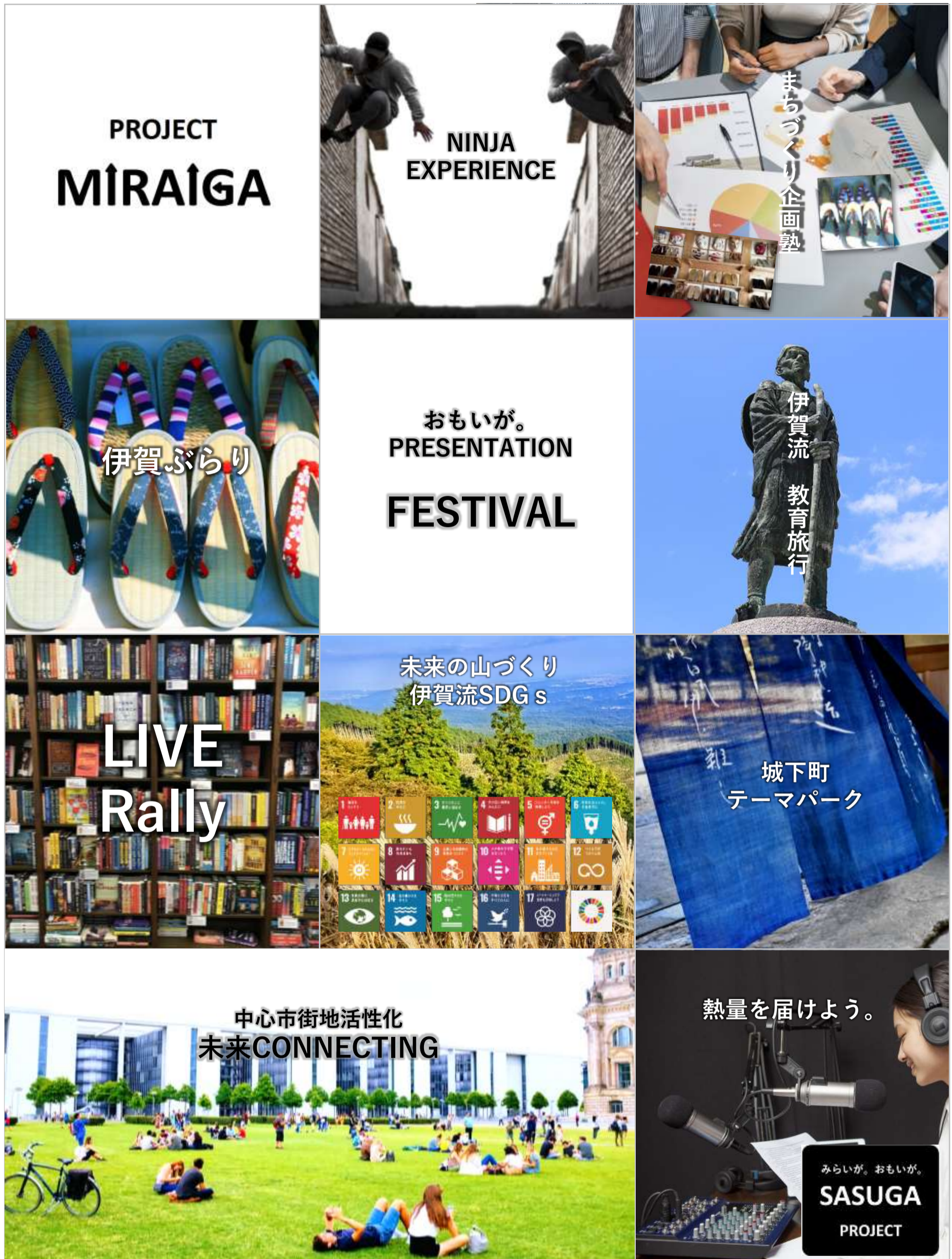


伊賀市観光振興ビジョン【解説版】



この画像は、本ビジョンに基づく具体的な取組イメージとして本編に記載しているものです。

この冊子は、伊賀市観光振興ビジョンの記載内容からポイントとなる箇所を抜粋し、解説やイメージ図を加えて編集したものです。

観光をとりまく社会情勢の変化をチャンスと捉え、観光振興を地域の課題解決につなげる。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、観光を取り巻く社会情勢は大きく変化しました。その影響は、デジタル技術の進展も加わったことにより個人の生活のスタイルや働き方など価値観の変容を加速させています。それに伴い、観光振興の目的もインバウンド（外国人来訪者）の獲得をはじめとした経済最優先の考え方から、環境・経済・社会のバランスをとることで持続可能な地域社会の形成することを重視されるようになりつつあります。

社会情勢の変化

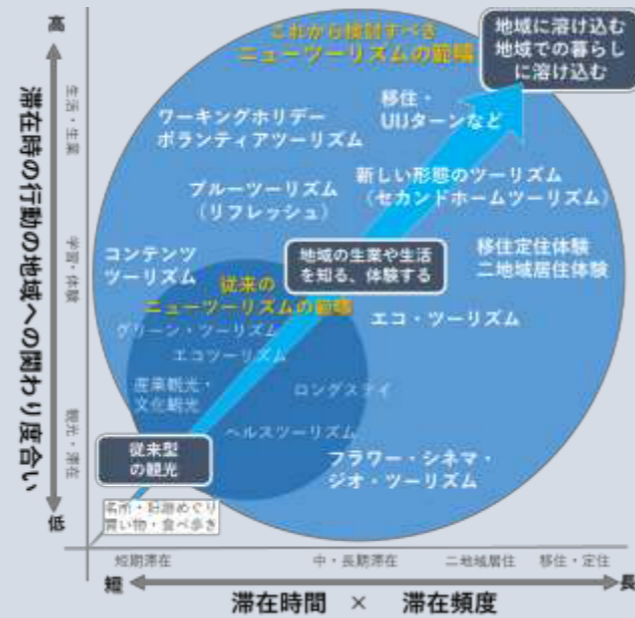
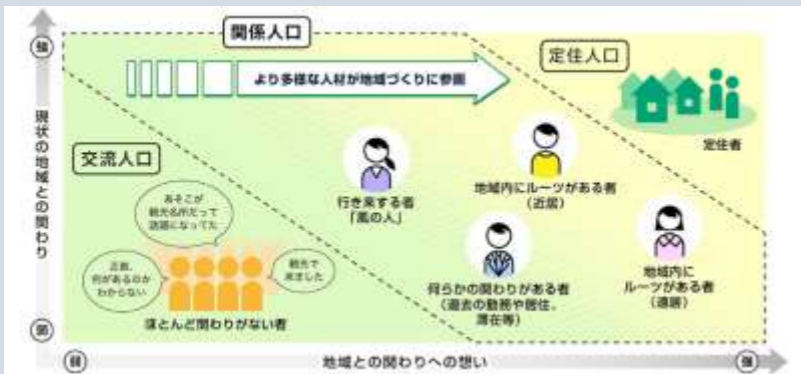
くわしくは... 1.1.2 「観光と取り巻く状況の変化」

伊賀市の課題

くわしくは... 2.1 「伊賀市における観光の現状と将来展望」

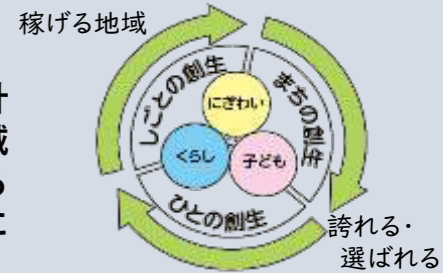
① 旅行形態の多様化

- ニーズの多様化→ツーリズムの多様化
- 旅行者と地域の関りがより重要になります。



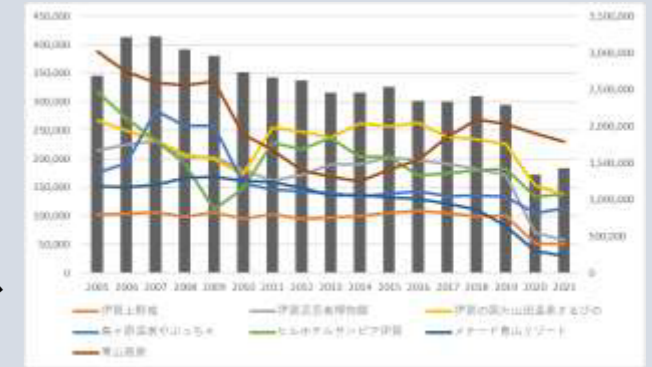
① 持続可能な地域社会の形成

「コロナの先の伊賀づくり」をテーマに掲げる第2次伊賀市総合計画第3次基本計画の下、伊賀市のまち・ひと・しごとの創生に地域全体で取り組む必要があります。観光面では、「誇れる・選ばれる伊賀市」「にぎわい創出」の実現に向け、**稼げる地域**となることにより持続可能な観光地経営を目指します。

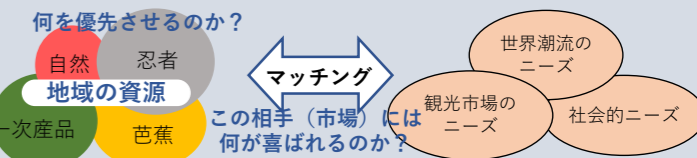


② 観光産業の回復・活性化

市内観光入込客数は長期的にも減少傾向で、近年のコロナ禍によりさらに大きなダメージを受けています。一方で、伊賀流忍者や多彩な食材をはじめ、豊富な観光資源に恵まれており、観光市場における観光意欲度（期待値）は県内他市町に比較しても高く、市場のポテンシャルからは伊賀の観光産業は伸ばせる余地があります。

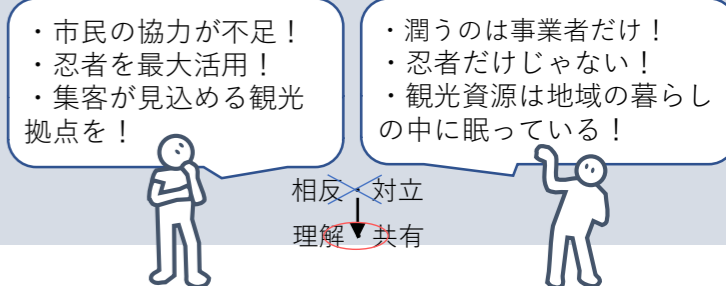


そのためには、**市場のニーズや社会の変化を捉えた地域資源の活用**が必要です。



③ 観光に対する市民意識の隔たり解消

市が取り組む観光施策に対する市民満足度・参画度は、全47施策の平均値を上回っていますが、観光に対する市民の意見は様々です。いずれか一つの意見や特定の資源を正解とするのではなく、**市全体として同じビジョンを共有し、意識の隔たりを解消**することが必要です。



② 豊かな暮らしへの考え方の変化

- 経済的・物質的な豊かさだけを追求するのではなく、安心・安全、心身の健康、生きがいなど「心のゆたかさ（Well-Being）」を大切にする生き方を重視する人が増えています。
- 自然災害の増加、アフターコロナ、SDGs、大阪・関西万博などを見据えたこれからの時代の価値観は、ますますWell-Beingが重要視されると考えられます。

Well-Being

経済価値だけではない観光振興へ

これを伊賀らしく目指していくために必要な視点

不易流行 × 「旅・住」包摂

くわしくは... 2.2.2 「目指す姿の実現に向けて」

「いつまでも変化しない本質的なもの（不易）を忘れない中にも、新しく変化を重ねているものをも取り入れていくこと。また、新味を求めて変化を重ねていく流行性こそが不易の本質であること。」を意味する伊賀市で生まれた俳聖松尾芭蕉の蕉風俳諧の理念の一つです。

「旅をするように住む」「住むような旅をする」定住者と旅行者の境界線を区別するのではなく、伊賀市への来訪者を地域として受け入れ、住む人が旅行者に旅の目的を提供するといった相互に関係性を深めていくような新たな考え方へ転換することが大切です。

さすが伊賀

さすが伊賀

さすが伊賀

伊賀市に関わる人達の熱量を育み、共感から広がる関係人口を次世代へとつなぐ。



伊賀市として、地域住民として、観光事業者として、人口減少を前提に、このまちに関わる人達の「心豊かなくらし(=Well-Being)」をどのように実現していくか。それには、関わる一人ひとりが「さすが、伊賀」と思える熱い想いを発芽または共有させ、まちづくりや交流人口の拡大に向け、自分自身で考え取り組んでいくことが必要です。持続可能な観光地域づくりが求められる時代、この熱量を広げ・持続させていくこと、つまり「熱量人口の拡大」こそがこれから目指すべき伊賀市観光の本質であり、本ビジョンとして目指すべき姿と位置付けます。

くわしくは… 2.2「観光振興で目指す姿と実現のしくみ」

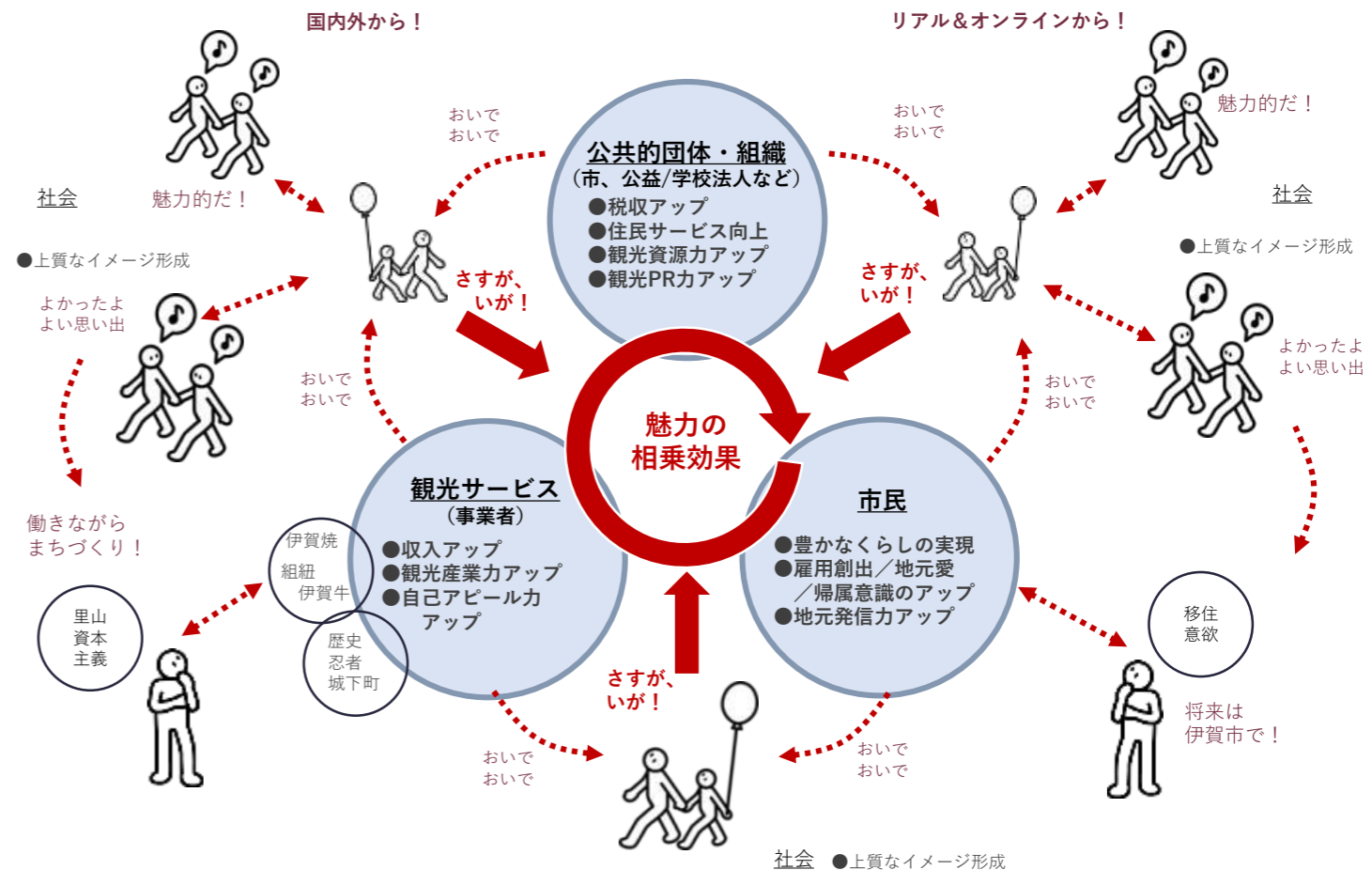
目指す姿の実現に向けて

観光振興ビジョンの基本的な考え方

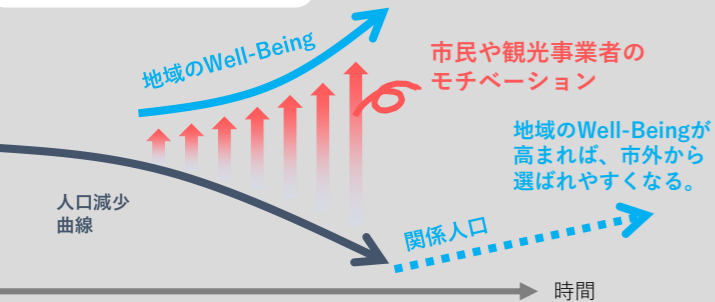
熱量人口を拡大させ、伊賀の魅力（地域全体のWell-Being）を向上させる力の源泉は、観光まちづくりに対する市民や観光事業者のモチベーション（動機・目的意識）です。市民をはじめ伊賀に関わる人それぞれが、身近にある様々な歴史、伝統、文化など（=地域資源）の良さを再発見・再評価し、それらを生かした伊賀での豊かな生活を自分たちが実践すること。そして、それらを発信・共有して多くの人の共感を得ることが、新たな熱量人口を生みます。今後、本ビジョンが目指す考え方が地域全体で共有されることにより、熱量人口を増加させる好循環サイクルが加速・拡大し、市の魅力度や発信力の向上、観光客との交流や共感の拡大、そして、シビックプライド醸成に繋がることを期待されます。

くわしくは… 1.2「観光振興ビジョン策定の基本的な考え方」

みんなで創る観光まちづくりのイメージ



●伊賀市観光の基本方針



●市民や観光事業者のモチベーションUPに必要なプロセス



2025年を重要な中間目標地点と位置づけ、観光振興に取り組む体制・役割・手法を“Re-design”する。

2025年は、「未来社会」「SDGs」「Society5.0」「共創」「デジタル化」などをテーマした「大阪・関西万博(EXPO2025)」が開催され、伊賀市においても「にぎわい忍者回廊整備にかかるPFI事業」における新たな観光施設(忍者体験施設)の開業が予定されています。2025年以降、これらを契機として人の価値観やライフスタイル、そして伊賀市への人の流れが大きく変化することも予想される中、市民、市内事業者をはじめ、伊賀市に関わる人達にとっての新しい時代におけるWell-Beingを実現するため、**これまでの観光振興に関する取組体制・役割分担・取組手法などを考え方を含めて新しく作り変えること(Re-design)**に優先的に取り組みます。



くわしくは... 3.1「マイルストーンとしての2025年の位置づけ」

具体的な取組

くわしくは... 3.3「具体的な取組」

●体制・しくみのRe-design

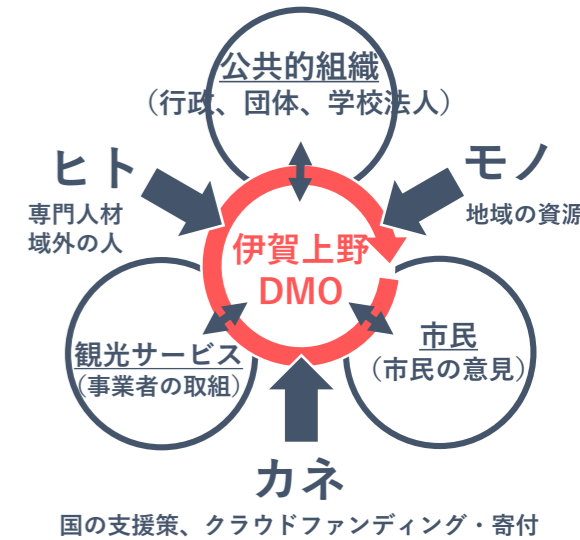
観光庁の「観光地域づくり法人」に登録された一般社団法人伊賀上野観光協会DMOを中心として、地域の**公益的組織**(行政や団体など)、**観光事業者**、**市民**が、それぞれの考え方や方向性を共有できる体制を作ります。また、その体制に**ヒト**(域外の専門人材など)、**モノ**(地域の資源)、**カネ**(国の支援策など)を集約することにより、観光による持続可能な地域づくりに取り組みます。

●事業手法のRe-design

インターネットやIT技術などを活用し、地域全体でデジタルデータを収集・活用する「**デジタルマーケティング**」に積極的に取り組み、新たな観光の魅力創造や需要の掘り起こしや、効果的なプロモーション活動につなげます。

●未来を創造するための共創チャレンジ

上記のRe-designされた「体制・しくみ」と「デジタルマーケティングによる情報」により、未来の伊賀市がより魅力的なまちになるような、**新たな価値を持った企画やプロジェクト**が地域全体で数多く取り組まれるよう進めます。また、それらの取組に対し、市民をはじめ多くの人々が一緒に関わったり、支援できるような**共感のしくみづくり**を進めます。



マーケティングミックス



共創できる場所のRe-design



一例として 人づくり

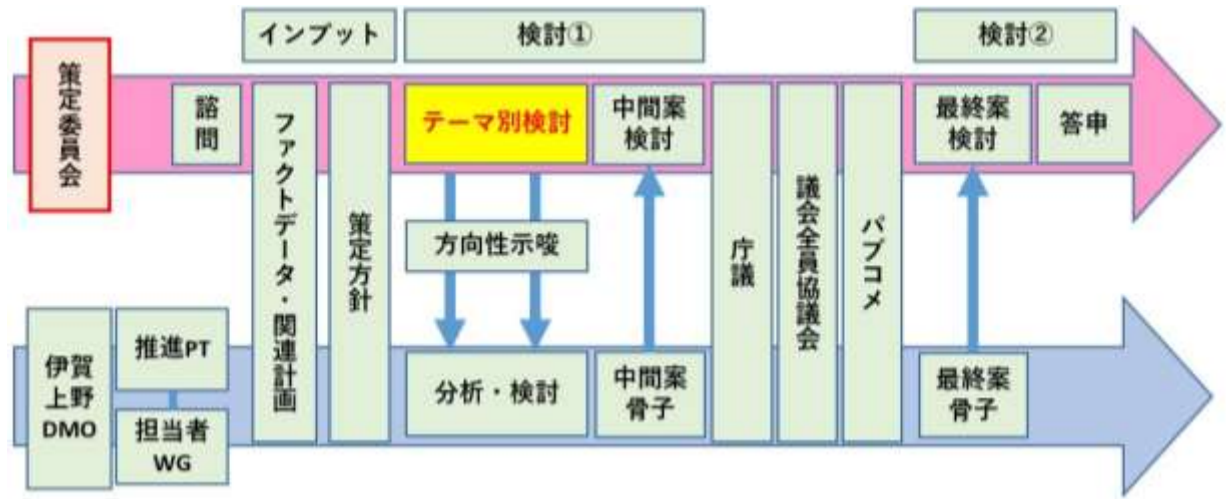
未来の伊賀づくり



● 検討体制

本ビジョンは、伊賀市観光振興ビジョン策定検討委員会と伊賀上野DMOがそれぞれの役割分担の下で連携・協力し、策定を進めています。
特に策定検討委員会では、毎回個別に設定したテーマについて議論し、ビジョンに盛り込むべき方向性を検討しました。

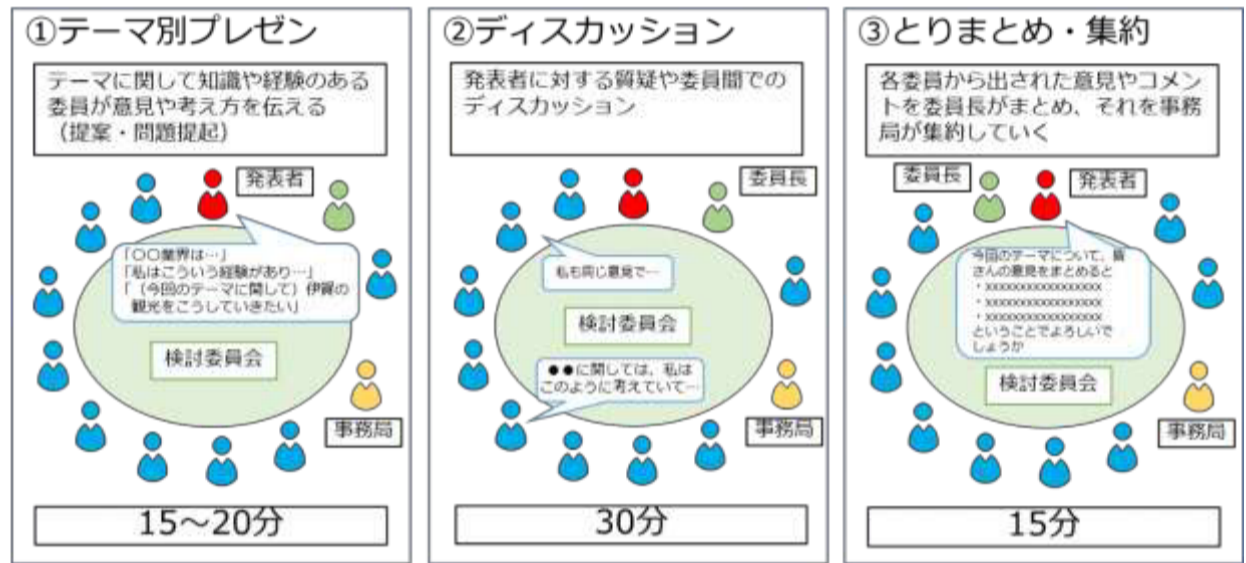
くわしくは... 4.1「検討体制」



● テーマ別検討の進め方

策定検討委員会のテーマ別検討では、設定されたテーマに関して知識や経験のある委員から、意見や考え方についてのプレゼンテーションをいただいた後、委員会においてディスカッションを行い、その内容を取りまとめる形で議論を進めました。

くわしくは... 4.1「検討体制」



● 策定検討委員会の開催経過

これまでの策定検討委員会では、「観光に対する市民意識」や「持続可能な地域づくり」などをテーマとして、以下のとおり審議を進めてきました。

くわしくは... 2.2.1「目指す姿」

開催回	検討テーマと検討項目
第1回	テーマ「不易流行」 ● 地域ブランド力調査の結果にみる、現在の伊賀市の相対的な位置 ● 地域に根付く資源（普遍的価値）と市場原理（相対的価値） ● 自由討議（伊賀市の10年後の未来を想像しよう）
第2回	テーマ「観光に対する市民の意識、シビックプライドの醸成」 ● メナード青山リゾートと伊賀市民との関係について ● 観光振興による地域活性化とファンづくりについて
第3回	テーマ「持続可能な地域づくり、旅住包摂の考え方について」 ● 歴史的資源を活用した観光まちづくり ● 持続可能な地域づくり、旅住包摂について
第4回	テーマ「私の考える“未来”と“観光”」 ● 各委員からの10分間プレゼンテーション
第5回	テーマ「私の考える“未来”と“観光”」 ● 各委員からの10分間プレゼンテーション
第6回	● 策定委員と伊賀上野DMOとのディスカッション
第7回	● 観光振興ビジョン中間案について
第8回	● 観光振興ビジョン中間案について ● 今後の具体的な取組について
第9回	● パブリックコメントの実施結果について ● （仮称）Beyond2025プロジェクトに向けて